

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12370

研究課題名（和文）大規模自然災害発生時の対応に備えた養護教諭志望学生対象教育プログラムの構築

研究課題名（英文）Building a Training Program for the student who wants to become the Yogo Teachers to learn to Respond to Natural Disasters

研究代表者

工藤 宣子（Kudo, Noriko）

千葉大学・教育学部・准教授

研究者番号：60305266

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：教育系養護教諭養成系学部においては、災害発生時の養護教諭の対応に関わる系統だった学習が行われていないことが明らかになった。

また、被災3県の養護教諭部会発行の報告書等の分析から、養護教諭の惨事ストレス等については、本人の問題等として処理され、養護教諭自身の精神的なケアについてはほとんど問題にされていないことが明らかになった。

加えて、養護教諭の心的疲弊に関連すると思われる他者感情への感性に関わる表情分析能力（微表情検知能力）は共感性が高いものの方がそうでない者より誤認知する可能性があることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大規模自然災害発生時、養護教諭は避難所となる学校における被災者のケアや勤務校の児童生徒の心身のケアを担う立場にある。しかし、それに備えた事前学習は系統的に行われていない現状が明らかになった。

大規模自然災害発生時、養護教諭はその能力を発揮するためには養護教諭自身の心身の安定が必須である、本研究において、養護教諭自身のメンタルヘルスに関わる研修や、脅威完成ストレスを誘発する認知特性の傾向が示唆されたことは今後の研究の発展に寄与すると思われる。

研究成果の概要（英文）：In the Faculty of Education, it was revealed that systematic learning related to the activities of the Yogo teachers in the event of a disaster was not conducted.

In addition, we analyzed the reports issued by the Yogo Teachers Group of Iwate, Miyagi, and Fukushima. As a result, it was clarified that the disaster stress of the Yogo teacher was treated as her own problem, and that the mental care of the Yogo teacher was not a problem.

In addition, it is suggested that the facial expression detection ability, which is related to the emotional sensitivity of the Yogo teachers and may be related to emotional exhaustion, may be misrecognized by those with higher empathy than those who do not.

研究分野：養護実践学

キーワード：大規模自然災害 養護教諭志望学生 教育プログラム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

看護系大学では、看護師養成分野ですでに災害看護学の学問領域が確立され、系統的に災害看護の関わる教育がされており、看護系大学で養成される養護教諭はその背景となる看護学領域において災害看護は必修科目となっている。しかし、看護系大学以外の養成機関においては、「免許法施行規則に定める事項及び科目」において、看護系大学が学ぶべき災害看護学に類似した科目はなく、災害に関わる内容は各大学の教員の裁量に任されているという実情がある。また、養護教諭は子ども達の心身の健康を守ることが第一義であり、自身の心身の健康について多くを語らないため、大規模自然災害発生時における養護教諭の心身の状態や惨事ストレスについては明らかになっていない。

2. 研究の目的

災害時の対応等に関する教育内容の検討や研究の集積を行っている看護教育並びに、看護師・消防師・自衛隊等の惨事ストレスに関する先行研究等を分析し、災害発生時に養護教諭が自身の健康を損なうことなく、被災者及び児童生徒へ対応するために必要な教育カリキュラムの構築を目指すものである。先行して、養護教諭の養成を目的としている教育学部養護教諭養成課程のカリキュラム分析を行い現状を把握する。加えて、東日本大震災に関わる当事者等の実践報告から、養護教諭志望学生が大規模自然災害を想定し、養成期間中に学ぶべき内容を検討する。

3. 研究の方法

第一に、看護系大学の災害看護学領域で使用されている教科書を分析し、養護教諭養成機関で活用し得る内容の有無について検討する。第二に教員養成系大学における養護教諭養成学部で開講されている「災害看護」関連科目の開講の現状を分析し、災害時の養護教諭の活動に関わる内容がどの程度教授されているのかを明らかにする。第三に東日本大震災当時の養護教諭の実践報告を分析し、当時の養護教諭の心身の健康状態を、本人がどのように認知していたかを明らかにする。第四に、東日本大震災の当事者である被災地の学校に勤務していた学校医、派遣スクールカウンセラー、養護教諭及び震災後新採用として被災地に勤務することになった養護教諭並びに、被災地の子供の語りを分析した研究者の語りから、養護教諭養成段階で必要な学びの内容を検討する。最後に、大規模自然災害発生時に特に必要となる健康観察のスキルについて検討する。

4. 研究成果

(1) 「災害看護学」という名称で出版されている書籍の分析

「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 災害看護 酒井明子他編 株式会社メディカ出版 第4版第1刷 2017年1月15日発行」「災害看護学・国際看護学 基本知識と現場の情報 小原真理子編 一般財団法人 放送大学教育振興会 第1刷 2014年3月1日発行」「新体系 看護学全書 看護の統合と実践 災害看護学 辺見弘監修 メヂカルフレンド社 第2版第1刷 平成25年2月20日発行」について内容の分析を行った。各書とも、定義・災害サイクル・被災者特性に応じた看護活動等について、系統的に記載されていた。しかし、学童期の子ども達に必要な支援及び、避難所になりうる学校の災害時の運営については若干の記載がある程度で、学校における大規模自然災害発生時の養護教諭の活動を担保できる内容とはなっていないことが明らかになった。しかし、各書とも、支援者(救援者)が受けるストレスや心理については記載されており、事前に自身のメンタルヘルスを担保する教育が施されていることが明らかになった。

(2) 教員養成系大学養護教諭養成学部の「災害看護」関連科目開講の現状

養護教諭の免許は教員養成系大学の養護教諭養成学部の他、看護系学部・心理系学部・福祉系学部等、様々な分野の養成機関で取得することが可能である。そこで、免許を取得できるだけでなく、実際に多くの養護教諭を輩出する教員養成系大学養護教諭養成学部(日本教育大学協会全国養護部門の会員名簿に掲載されている教員が開講している)の「災害看護」関連科目開講の現状を検討した。研究方法はホームページ用に公開されている各大学の専門科目におけるシラバスをから、災害時の養護教諭の活動に関わる内容を抽出した。抽出にあたっては「災害」というキーワードが入っているものとしたが、「学校管理下での災害」や「危機管理的な対応」等、自然災害等の「災害」とは考えられないもの、あるいは明確な区別がつかないものは抽出の対象から外すこととした。その結果、教職基礎科目等として「学校安全」が開講され、防災・防犯訓練の実際の内容が教育されていた大学が1大学あった他は、系統的な学びが担保されているとは言いにくく、また、開講時間も非常に少なかった。加えて内容は担当者の専門領域に関わる部分であり、「災害」関連科目が開講されていない大学もあった。

(3) 東日本大震災当時の養護教諭の実践報告の分析

岩手・宮城・福島3県の学校保健会養護教諭部会発行の報告書及び関連書籍等から、養護教諭自身の状況について記載されていた事項を抜粋し分析した。

岩手県学校保健会養護教諭部会の報告書には多くの実践発表の中にはあまり表現されることのない、発災当時の養護教諭自身の状況が報告されていた。特に、勤務校の保護者であり友人である養護教諭を津波で亡くした養護教諭の思い等、示唆に富む内容であった。

宮城県学校保健会養護教諭部会発行の報告書には、養護教諭の惨事ストレスをうかがわせる内容が記載されていたが、その記載は「本人の限界」というカテゴリーに分類されていた。「本人の限界」として分類されていた内容を再整理した結果、「精神的な負担が大きかった」「体力も消耗した」の他、自身の家族が流されたことやPTSD・バーンアウトに近い状態等の記載があり、養護教諭がおかれるであろう状況やそれに備えるための知識や対処方法に関する学びが必要であることが示唆された。

福島県は原子力発電事故により、岩手・宮城両県とは違った対応や実践が求められたことが推察される報告が記載されていた。また、経験のない放射能汚染に関わる情報に翻弄された経験から、「情報」に関することが多数記載されていた。

上記の他、養護教諭関連雑誌には、子ども達の発する言葉によるものやそうでないものの微細なサインをも逃さないこと、子どもの様子を観察する確かな目を持つことなど、健康観察等、大切なのは普段の実践であり、その延長に発災時の取り組みがあるとの記載があった。

(4) 被災地の学校に勤務していた学校医、派遣スクールカウンセラー、養護教諭及び震災後新採用として被災地に勤務することになった養護教諭並びに、被災地の子供の語りを分析した研究者、精神科医の語りからの学び

養護教諭志望学生および、経験年数5年目程度までの養護教諭を対象に、東日本大震災当時及び直後に同じ学校に勤務していた学校医、派遣スクールカウンセラー、養護教諭及び震災後新採用として被災地に勤務することになった養護教諭並びに、被災地の子供の語りを分析した研究者を講師とした研修会を開催した。また、養護教諭のリラクゼーションを目的として、精神科医の講演も同時に開催した。研修会の前後に、参加者が研修会に期待する研修内容について調査した。研修会の内容は報告書にまとめた。

(5) 大規模自然災害発生時に特に必要となる健康観察のスキル

大規模自然災害発生時、子ども達は周りの悲惨な状況と自身の置かれた環境を比較し、自身の気持ちを表現しない子ども達も現れてきた。そこで、日本でも数少ない認定FACS(Facial Action Coding System: 顔面動作符号化システム) コーダーの資格を持つ清水建二氏の協力を得て、研修会を行った。研修会に先立ち、認定FACS コーダーと養護教諭経験者である研究代表者が読み取る子供の表情の差異について検討した両者にはほとんど差がなかった。そこで、研修会参加者を対象に顔面符号化システムを活用した微表情検知テストを作成し、実験群・対象群を対象に研修会受講前後の微表情検知能力(研修会における微表情検知の効果)を測定した。その結果、Flash版においては研修会前に行った検知テストで正答率の高かった「幸福」「怒り」「驚き」以外の「軽蔑」「嫌悪」「怒り」「恐怖」等の表情検知について、研修会参加後の方が有意に高いという結果を得た。また、動画版においても、「軽蔑」「嫌悪」「恐怖」「中立」等の表情検知について研修会参加後の方が有意に高いという結果を得た。一方対照群である研修会不参加者についても、Flash版においては「恐怖」が、動画版においては「幸福」の表情検知に有意差があり、テストにおける学習効果の影響もうかがえた。しかし、研修会参加前の実験群・大將軍の微表情検知については有意差が認められなかった。表情から感情を推測する微表情検知能力については研修会参加の効果を示唆された。

次に研究協力に同意を得た養護教諭志望学生を対象に、共感性プロセス尺度を活用し、共感性と微表情検知能力との関係を検討した。その悔過。共感性の高い傾向の者は「怒り」「悲しみ」等のネガティブな感情をご認知する可能性があることが示唆された。困った人に気づくという他者感情への感受性は共感性のプロセスに影響を与える可能性が示唆され、加えて、ネガティブな感情への同情は共感疲労に関わる感情的側面に影響を与える可能性が示唆された。

上記の5分野の研究成果は「大規模自然災害発生時の対応に備えた養護教諭志望学生対象教育プログラムの構築」と題した総ページ数91ページの報告書としてまとめ、700部印刷し、要望に応じて新採用研修等に活用していただく教育委員会や養護教諭養成大学等に配布する予定である。

< 分析対象文献一覧 >

ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 災害看護 酒井明子他編 株式会社メディア出版 第4版第1刷 2017年1月15日発行

災害看護学・国際看護学 基本知識と現場の情報 小原真理子編 一般財団法人 放送
 大学教育振興会 第1刷 2014年3月1日発行
 新体系 看護学全書 看護の統合と実践 災害看護学 辺見弘監修 メヂカルフレンド
 社 第2版第1刷 平成25年2月20日発行
 2011.3.11 明日へ つなぐ とき いのち ころ 東日本大震災にかかわる養護教諭の
 実践報告集 岩手県学校保健会養護教諭部会 2013年2月20日発行
 東日本大震災直後の保健室 改訂版 宮城県学校保健会養護教諭部会 2013年9月発行
 東日本大震災記録集 絆 ふくしまの子らとともに 福島県学校保健会養護教諭部会
 2013年1月発行
 保健室 2014年4月号 No171号 全国養護教諭サークル協議会 編 農山漁村文化協会
 保健室 2015年4月号 No177号 全国養護教諭サークル協議会 編 農山漁村文化協会
 保健室 2016年4月号 No183号 全国養護教諭サークル協議会 編 本の泉社
 保健室 2017年4月号 No189号 全国養護教諭サークル協議会 編 本の泉社
 保健室 2018年4月号 No195号 全国養護教諭サークル協議会 編 本の泉社

<シラバスの分析対象とした教員養成系大学養護教諭養成学部>

北海道教育大学 教育学部 札幌校
 弘前大学 教育学部 教育保健講座
 茨城大学 教育学部 教育保健教室
 埼玉大学 教育学部 学校保健学講座
 千葉大学 教育学部 養護教諭養成課程（現在の学校教員養成課程 養護教諭コース）
 静岡大学 教育学部 養護教育専攻
 愛知教育大学 教育学部 養護教育講座
 大阪教育大学 教育学部
 岡山大学 教育学部
 熊本大学 教育学部 養護教諭養成課程

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 工藤 宣子	4. 巻 第66巻第1号
2. 論文標題 教員養成系大学（学部）養護教諭養成課程における「災害看護」関連科目開講の現状	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 千葉大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 129 - 132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 工藤宣子、清水建二
2. 発表標題 表情分析に関する研修受講が健康観察能力に与える影響の検討 - 養護教諭志望学生の微表情検知テスト結果の分析から -
3. 学会等名 - 一般社団法人日本学校保健学会第65回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤宣子、清水建二
2. 発表標題 養護教諭志望学生における健康観察能力と共感性認知特性の関連
3. 学会等名 - 一般社団法人日本学校保健学会第66回学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

「大規模自然災害発生時の対応に備えた養護教諭志望学生対象教育プログラムの構築」研究成果報告集として、総ページ数91ページの報告集を2020年3月に作成し700部印刷した、この報告集は養護教諭の新採用研修担当教育委員会・教育センター等の他、養護教諭養成カリキュラムの中に災害看護学が組み込まれていない教育系養護教諭養成学部をはじめとする養成学部に無償で配布する予定であり、希望に応じて必要部数を送付し、活用していただく準備ができています。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	清水 建二 (Shimizu Kenji)		